

するくらい之恩恵受けてるんだから、対策はできるだけ期間限定がポイント。

いろんな鳥たち

果樹園見ると実にいろいろな鳥たちがやってくる。樹上で、地上でさまざまな虫食ベてる。

収穫が終われば1日でも早く鳥たちに開放するのが大切。

ナシ園で固定式の防鳥網室作っちゃった人いるのね。

鳥が入れない↓鱗翅目害虫が多発↓あわてて殺虫剤を散布↓天敵まで死滅してその後数年にわたりハダニ、コナカイガラムシが多発↓薬剤散布回数が増え、ようやく鳥の働きを認識してもらった。鳥に來られたら困るって時だけ対策するのが獣害対策と根本的に違うからね。

対策グッズを使いこなす

【案山子】

効果ないよー！アツ、昔、案山子立てた田んぼだけが、カモの被害なかったっていう人がいた。効かないってわかって期待しないで立ててみ

ると地域が楽しくなるって効果あるし、作り始めたら面白いよ。

【防鳥糸】

カラス対策で糸張る人が多いけど、効果があると言えばあるし、無いといえはない。

他に餌があれば糸を張った畑は無理に入ろうとしないけど、そこしか餌がないとなればどうしても糸では防げない。

効果のある張り方は、段違いに高さを変えて張る、なるべく畑より広い範囲に畑の外から張る。見えにくいテグス糸と、よく見える黄色の防鳥糸の2種類を使うと効果が高い。

農作物被害じゃないけど、ハウスのてっぺんに降りてきてビニルごとパイプ握るから天井のビニルがミシン目みたいに破れちゃうことあるでしょ。防ぐにはハウスの天上の真上、高さ25センチくらいに糸を張ると防げる。高さが低いと上からまたぐし高いと潜り込んで止まる。

糸は放置しないこと。トラクタ使っていて垂れていた糸に気づかないと目をケガし

ちゃうこともあるからね。

【防鳥ネット】

最も確実なのが防鳥ネット。効かせるコツはすそ部分を丁寧に抑えることと作物から30センチ以上あけること。トウモロコシやブルーベリー、ポンカンなんかは植えるときからトンネル状にネット掛けできるように畑にしておこう。

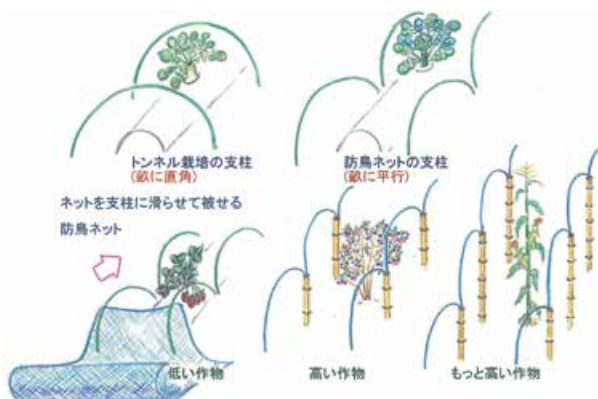
ネットをかける際の支柱にはぜひクラスファイバーに青のコーティングがしてある太さ5.5〜6.5ミリの小トンネル用のポール。長さは2.7〜3メートルがいい(100本単位だとホームセンターで注文すると買える)

小トンネルに不織布の保温資材やビニルを張るときは畝に直角に支柱を立てるけど防鳥ネット張るときは両畝肩に縦に立てていく。イチゴみたいな背の低い作物はポールを直接地面に突き刺して立てる。トウモロコシみたいに背の高い作物は竹かハウス用の鉄パイプを立ててそれにポールをさしていく。

1月に立て方野方で実習すっから。(曲集落)

【その他の防鳥グッズ】

水鳥やカラスに有効な鳥用の爆音機(カセットボンベ使用)で爆音と同時にプロペラが5メートル打ちあがる)やカラスに有効な撃退器(カラスの警戒時の鳴き声がランダムに流れる)もあるから、実習時に参加してみてね。



次回はモグラの話だよ~



講師紹介 **井上 雅央氏**

1949年、奈良県出身。愛媛大学大学院農学研究科修士課程修了、京都大学博士(農学)。元農研機構 近畿中国四国農業研究センター鳥獣害研究チーム長。退職後、同センター専門員。宮崎県、熊本県、広島県、静岡県などでアドバイザーとして継続的に活動。著書に、『これならできる獣害対策』『山の畑をサルから守る』『山と田畑をシカから守る』『60歳からの防除作業便利帳』『ハダニ』『女性がすれはずんずん進む獣害対策』(いずれも農文協)など多数。

